

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI

以前もこの連載で紹介した『田んぼの上のレストラン』。この建物は、鋼管杭を打って高止まりにして、それにトラックのシャシーのような土台を巡らせ、更にその上にLGSパネルシステムを用いて平屋を建てる工法『スパイキーLGS』を用いています。水盤の上に浮かび上がる建物。例えば金閣寺。この世界の人を唸らせる孤高の建築は高床式ではありませんが、もし水盤があればその美しさが際立ちません。水盤建築は島国日本人の自然観をよく表していると思うのです。しかし、水盤建築は一般的に大変お金が掛かるものです。ここで発想の転換。春先に新幹線の車窓から見ると、各地の田んぼに水が張ってあって、あたかも日本中が水浸しのような印象さえ受けるのです。もし田んぼの上に、ふわり、と浮かぶような建物ができればさぞかし素敵だろうな、というのが発想の原点です。それは日本人の生活の原点、稲作に根差した水盤建築になります。まさにクールジャパン。そしてそれは、ダイナミックな借景なのです。水盤が発想の起点なのですが、借景ということであれば、日本の四季折々、田んぼレストランがどのような表情を見せるのか？今回はそれをビジュアル化してみました。こうしてみると、四季の変化の中に稲という植物やそこに住む生物たちの輪廻があり、壮大な大自然の中に謙虚な日本人の姿が小さく浮かび上がります。高床式の田んぼレストランがあれば、見慣れてしまった風景も、建物の小さな存在が触媒になって、いろんな思いがわいてくるのです。

Spinoff issue

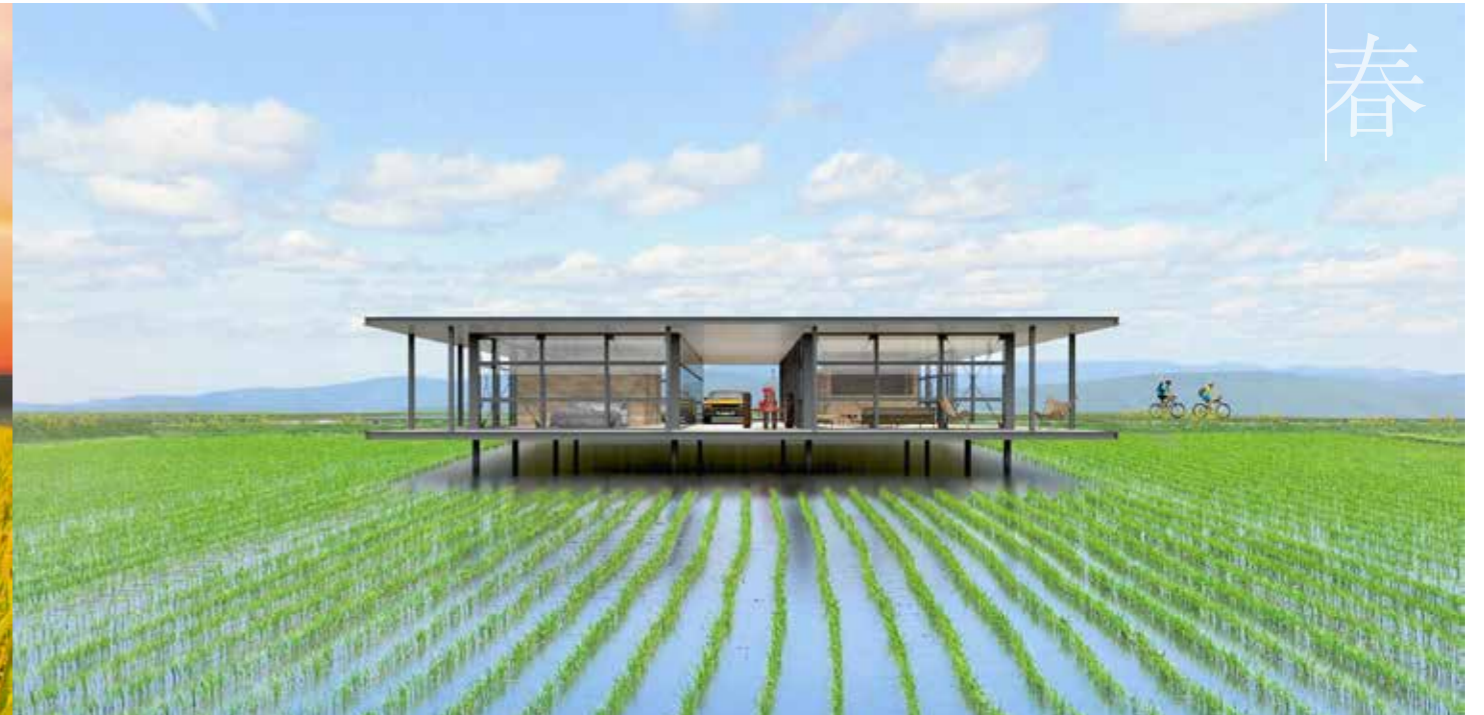
高床式工法が作り出す 新しい日本の風景 田んぼレストランの四季

ダイナミックな借景。日本人の原点に根差した景色としての田んぼレストランの四季をイメージしてみてください。何代も繰り返す稲や生物の輪廻の中に、日本人の姿が浮かび上がります。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



www.daytona-house.com



Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA



1 / トレーニングルームを兼ねた土間からガラス越しのガレージと AMG GTを望む。男性にとっては堪らないまさに幸せな空間です。2 / 土間に鎮座するトレーニングマシン。鉄骨の骨組みとマシンのマッチングは最高です。3&4 / 1さん自慢のナイキ・コレクションと螺旋階段に付けられたクルマのキー。漆黒の世界に、こういったワンポイントの差し色は効果的です。

1F GARAGE & GYM

2F LIVING

1 / 螺旋階段「ダイナソーボーン」を登ると、2Fには開放的なリビングダイニングが広がります。生活感を適度に脱臭したバランスの良さが、むしろ寛ぎを生み出す鉄骨空間の独特の境地。壁に掛けられたメタル製「LOVE」の文字やDJブースも印象的です。2 / リビングからさらに上に伸びる螺旋階段の「恐竜の背骨」を望む。ベストマッチです。



キッチン是最小限のステンレスのアイランドタイプ。鉄骨とステンレスの相性は微調整が必要ですが、上手に納まりました。階段室の3F吹き抜けから寝室を望む。吹き抜け上部から差し込む朝日で目覚める趣向。オーナーは早起きなのです。

GLBが2世帯併設した新しい賃貸のカタチ

この建物は浜松市の幹線道路沿いにあり、ガレージアパート「GLB」を併設しています。写真の右半分は2スパン×2がGLB。左半分が施主住居。規定を満たせばアパート付きでも住宅ローン申請ができる好例なのです。



ROOF TOP

オーナー住居の屋上はルーフトラスになっており、しかも建物と一体になったストレージも併設。写真は、階段室を見たもの。屋根形状はGLBと同じRスパンの曲面屋根を採用しています。

OWNER / 静岡県浜松市 1邸

鉄骨と筋肉の良い関係

トレーニングルームを備えたデイトナハウス×LDKの住宅が浜松に完成しました。スパルタン&ハードボイルドな暮らし。その心境をお施主さんにお聞きしました。

デイトナハウスの
ある暮らし

Life⁰¹ with DAYTONA HOUSE×LDK



浜松市内の幹線道路沿いに完成したこの家は、ガレージアパート「GLB」を2世帯併設したアパート併用型住宅です。施主の1さんは、現在は一人暮らしですが、将来を見越してやや広めの家として間取りを設計しています。この家にお訪ねして、まず驚かされたのが、1Fの玄関土間に併設されたトレーニングルームです。トラスでスパンを飛ばした空間の中央に、鎮座したスパルタンなトレーニングマシンで、施主は日々自己鍛錬に勤しんでいるのです。この空間は夜のスポットライトの中では更に魅力が増します。艶消し黒の鉄骨の素材感と、メタル製のトレーニングマシンの武骨感がベストマッチするのです。

そして、その土間からガラス越しに見えるのは1さんの愛車である真っ赤なボデイカラーが特徴的なAMG GT。思わずジェイソン・ステイサムが出演している映画の様な世界観を想起させます。

そんな玄関土間から上方に伸びていく、螺旋階段「ダイナソーボーン」を登って2階に行くと、リビングダイニングが広がります。ゆったりと高級感のあるシンプルなソファ。機能性のデザインを感じさせるダイニングテーブル。オールステンレスのアイランドキッチン。シャープなデザインのものはない。にも関わらず、殺風景な感じがしない。1さんは視覚の緻密な計算に基づいて、家具のレイアウトを決めたそうです。必要、と不必要。それは人によって様々で

ですが、鉄骨構造が露出しているというところは、必要、の潔さが際立っている空間だということ。虚飾や隠ぺいや、ある種のデザインなどはむしろ、不必要な要素なのかもしれません。そしてその空間に一本の観葉植物(有機的な生き物)が置いてあるだけで、骨格が増すのです。有機的な物、を差し色のように使う極意です。

インダストリアル系という言葉が最近流行している理由は、この、必要、と関係ある気がします。虚飾を排したこのリアル感こそ、カッコいい。ファッションが機能性にフォーカスしたアウトドアウェアやスポーツウェアが人気になっているのも、ほぼ同じ理由かもしれません。

その意味で、この家は1さんの頭の中にすでにデイトナハウス×LDKの骨組みのイメージがあって、そこに肉づけしていくように、必要なものが整然と置かれています。鉄骨と筋肉の良い関係。実に安定的で落ち着いた世界でした。そして何よりカッコいいのです。



ベンチプレスの様子を見せてくれた施主の1さん。背景の鉄骨、ダブルプレスとのコントラストが絶妙でした。まさに力の伝達の二重奏です。